2026(令和 8)年度入学試験問題

国　語

（注意）解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

盈進高等学校

一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

温暖化対策として、あなたは、なにかしているだろうか。レジ袋aサクゲンのために、エコバッグを買った？　ペットボトル入り飲料を買わないようにマイボトルを持ち歩いている？　車をハイブリッドカーにした？

はっきり言おう。その善意だけなら無意味に終わる。それどころか、その善意は有害でさえある。

なぜだろうか。温暖化対策をしていると思い込むことで、真に必要とされているもっとbダイタンなアクションを起こさなくなってしまうからだ。良心の呵責（かしゃく）から逃れ、現実の危機から目を背けることを許す①「免罪符」として機能する消費行動は、資本の側が環境配慮を装って私たちを欺くグリーン・ウォッシュ※にいとも簡単に取り込まれてしまう。

では、国連がcカカげ、各国政府も大企業も推進する「ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）」なら地球全体の環境を変えていくことができるだろうか。いや、それもやはりうまくいかない。政府や企業がＳＤＧｓの行動指針をいくつかなぞったところで、気候変動は止められないのだ。ＳＤＧｓはアリバイ作りのようなものであり、目下の危機から目を背けさせる効果しかない。

かつて、マルクス※は、資本主義の辛（つら）い現実が引き起こす苦悩を和らげる「宗教」を「大衆のアヘン※」だと批判した。②ＳＤＧｓはまさに現代版「大衆のアヘン」である。

アヘンに逃げ込むことなく、直視しなくてはならない現実は、私たち人間が地球のあり方を取り返しのつかないほど大きく変えてしまっているということだ。

人類の経済活動が地球に与えた影響があまりに大きいため、ノーベル化学賞受賞者のパウル・クルッツェンは、地質学的に見て、地球は新たな年代に突入したと言い、それを「人新世（ひとしんせい）」（Anthropocene）と名付けた。人間たちの活動の痕跡が、地球の表面をdオオいつくした年代という意味である。

実際、ビル、工場、道路、農地、ダムなどが地表を埋めつくし、海洋にはマイクロ・プラスチックが大量に浮遊している。人工物が地球を大きく変えているのだ。とりわけそのなかでも、人類の活動によって飛躍的に増大しているのが、大気中の二酸化炭素である。

ご存じのとおり、二酸化炭素は温室効果ガスのひとつだ。温室効果ガスが地表から放射された熱を吸収し、大気は暖まっていく。その温室効

果のおかげで、地球は、人間が暮らしていける気温に保たれてきた。

［　A　］、産業革命以降、人間は石炭や石油などの化石燃料を大量に使用し、膨大な二酸化炭素を排出するようになった。産業革命以前には二八〇ｐｐｍであった大気中の二酸化炭素濃度が、ついに二〇一六年には、南極でも四〇〇ｐｐｍを超えてしまった。これは四〇〇万年ぶりのことだという。そして、その値は、今この瞬間も増え続けている。

四〇〇万年前の「※鮮新世（せんしんせい）」の平均気温は現在よりも二～三℃高く、南極やグリーンランドの氷床はｅユウカイしており、海面は最低でも六ｍ高かったという。なかには一〇～二〇ｍほど高かったとする研究もある。

「人新世」の気候変動も、当時と同じような状況に地球環境を近づけていくのだろうか。人類が築いてきた文明が、存続の危機に直面しているのは間違いない。

③近代化による経済成長は、豊かな生活を約束していたはずだった。ところが、「人新世」の環境危機によって明らかになりつつあるのは、④皮肉なことに、まさに経済成長が、人類の繁栄の基盤を切り崩しつつあるという事実である。

気候変動が急激に進んでも、超富裕層は、これまでどおりの※放埒（ほうらつ）な生活を続けることができるかもしれない。しかし、私たち庶民のほとんどは、これまでの暮らしを失い、どう生き延びるのかを必死で探ることになる。

そのような事態を避けるためには、政治家や専門家だけに危機対応を任せていてはならない。「人任せ」では、超富裕層が優遇されるだけだろう。［　B　］より良い未来を選択するためには、市民の一人ひとりが当事者として立ち上がり、声を上げ、行動しなければならないのだ。そうはいっても、ただ闇雲（やみくも）に声を上げるだけでは貴重な時間を浪費してしまう。正しい方向を目指すのが肝腎となる。

（中略）

ドイツの社会学者ウルリッヒ・ブラントとマルクス・ヴィッセンは、※グローバル・サウスからの資源やエネルギーの収奪に基づいた先進国のライフスタイルを「帝国的生活様式」（imperiale Lebensweise）と呼んでいる。

帝国的生活様式とは要するに、グローバル・ノースにおける大量生産・大量消費型の社会のことだ。それは先進国に暮らす私たちにとっては、豊かな生活を実現してくれる。その結果、帝国的生活様式は望ましく、魅力的なものとして受け入れられている。だが、その裏では、グローバ

ル・サウスの地域や社会集団から収奪し、さらには私たちの豊かな生活の代償を押しつける構造が存在するのである。

問題は、このような収奪や代償の転嫁なしには、帝国的生活様式は維持できないということだ。グローバル・サウスの人々の生活条件の悪化は、資本主義の前提条件であり、南北の支配従属関係は、例外的事態ではなく、平常運転なのである。

ひとつ例を挙げよう。私たちの生活にすっかり入り込んだファスト・ファッションの洋服を作っているのは、劣悪な条件で働くバングラデシュの労働者たちである。二〇一三年に、五つの縫製工場が入った商業ビル「ラナ・プラザ」が崩壊し、一〇〇〇人以上の命が犠牲になる事故があったのは有名だ。

そして、バングラデシュで生産される服の原料である綿花を栽培しているのは、四〇℃の酷暑のなかで作業を行うインドの貧しい農民である。ファッション業界からの需要増大に合わせて、遺伝子組み換えの綿花が大規模に導入されている。その結果、自家採取の種子が失われ、農民は、遺伝子組み換え品種の種子と化学肥料、除草剤を毎年購入しなくてはならない。干ばつや熱波のせいで不作ともなれば、農民たちは借金を抱えて、自殺に追い込まれることも少なくない。

ここでの悲劇は、帝国的生活様式による生産と消費に依存しているグローバル・サウスも、グローバル資本主義の構造的理由から、この平常運転に依存せざるを得ないことにある。

（中略）

⑤もう一方の本質的側面、それが地球環境である。資本主義による収奪の対象は周辺部の労働力だけでなく、地球環境全体なのだ。資源、エネルギー、食料も先進国との「不等価交換」によってグローバル・サウスから奪われていくのである。人間を資本蓄積のための道具として扱う資本主義は、自然もまた単なる掠奪（りゃくだつ）の対象とみなす。このことが本書の基本的主張のひとつをなす。

そして、そのような社会システムが、無限の経済成長を目指せば、地球環境が危機的状況に陥るのは、いわば当然の帰結なのである。

要するに、ウ※ォーラーステインの議論を拡張すれば、中核部は、資源を周辺部から掠奪し、同時に経済発展の背後に潜むコストや負荷を周辺部に押しつけてきたのである。

日本人の食生活の影の主役になっているパーム油を例に取ろう。パーム油は価格が安いだけでなく、酸化しにくいため、加工食品やお菓子、

あるいはファストフードなどでよく利用されている。

このパーム油が生産されているのが、インドネシアやマレーシアである。パーム油の原料となるアブラヤシの栽培面積は、今世紀に入ってから倍増しており、熱帯雨林の乱開発による森林破壊が急速に進んでいる。

急増するパーム油の生産の影響は、熱帯雨林の生態系の破壊だけではない。大規模な開発は、熱帯雨林の自然に依存してきた人々の暮らしにも破壊的な影響を与えている。例えば、熱帯雨林を農園として切り拓(ひら)いた結果、土壌侵食が起き、肥料・農薬が河川に流出して、川魚が減少しているのだ。この地域の人々は、川魚からたんぱく質を取っていたが、それができなくなり、お金が以前より必要となった。その結果、金銭を目当てに野生動物、とりわけオランウータンやトラなど絶滅危惧種の違法取引に手を染めるようになったのだ。

このように、中核部での廉価で、便利な生活の背後には、周辺部からの労働力の搾取(さくしゅ)だけでなく、資源の収奪とそれに伴う環境負荷の押しつけが欠かせないのである。

それゆえ環境危機が引き起こす被害に、地球上の人々がみな等しく苦しむわけではない。食料やエネルギーや原料の生産・消費に結びついた環境負荷は不平等に分配されているのだ。

「外部化社会」として先進国を糾弾するレ※ーセニッヒによれば、このように、「どこか遠く」の人々や自然環境に負荷を転嫁し、その真の費用を不払いにすることこそが、私たちの豊かな生活の前提条件なのである。

こうして帝国的生活様式は、日常の私たちの生活を通じて絶えず再生産される。一方で、その暴力性は遠くの地で発揮されているため、不可視化され続けてきた。

環境危機という言葉を知って、私たちが免罪符的に行うことは、エコバッグを「買う」ことだろう。だが、そのエコバッグすらも、新しいデザインのものが次々と発売される。宣伝に刺激され、また次のものを買ってしまう。そして、免罪符がもたらす満足感のせいで、そのエコバッグが作られる際の遠くの地での人間や自然への暴力には、ますます無関心になる。資本が謀(たばか)るグリーン・ウォッシュに取り込まれるとは⑥そういうことだ。

先進国の人々は単に「転嫁」に対する「無知」を強制されるだけではない。自らの生活をより豊かにしてくれる、帝国的生活様式を望ましい

ものとして積極的に内面化するようになっていくのである。人々は無知の状態を欲望するようになり、真実を直視することを恐れる。

C 。

しかし、自分たちがうまくいっているのは、誰かがうまくいっていないからだと私たちは暗に気がついているのではないか。

（斎藤幸平『人新世の「資本論」』による）

※グリーン・ウォッシュ…環境に配慮したかのように見せかける、実態が伴わない行動や表現。

※マルクス…十九世紀のドイツの哲学者、経済学者、革命家。

※アヘン…ケシ植物由来の麻薬。

※鮮新世…新生代新第三紀の後半の時期。約五三三万年前から二五八万年前までの期間。

※放埒…勝手気ままでしまりのない様子。

※グローバル・サウス…単純に地理的に南半球にある国々を指すのではなく、「経済的・歴史的に発展途上にある国々」を指す概念。

※ウォーラーステイン…アメリカの社会学者・経済史家で、「グローバル・サウスという周辺部から廉価な労働力を搾取し、その生産物を買い叩くことで、中核部はより大きな利潤を上げてきた」という考えを持つ。

※レーセニッヒ…ドイツの社会学者。代表的な概念のひとつが「外部化社会」。これは先進国の豊かな生活が、他地域からの搾取や環境負荷の転嫁によって成り立っているという考え方。

問一 ═══ a～eのカタカナを漢字に直しなさい（楷書でていねいに書きなさい）。

問二　［　A　］・［　B　］に入る語句の組み合わせとして適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　A　ところが　B　例えば　　イ　A　つまり　B　例えば

ウ　A　ところが　B　だから　　エ　A　つまり　B　だから

問三　①『免罪符』として機能する消費行動」とありますが、次のi～ⅳについて、この「消費行動」と同じものは「○」、違うものは「×」とした組み合わせとして適当なものを、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

i　森林を守るために、コンビニ等で割り箸をもらわず、マイ箸を持参する。
ii　フードロスを減らすために、家では食事を作らず、外食をする。
iii　水質汚染を防ぐために、植物由来の成分で作られている洗剤を使う。
ⅳ　二酸化炭素の排出量を減らすために、大量生産された服を安く購入する。

ア［i　○　ii　○　iii　×　ⅳ　×］　イ［i　×　ii　×　iii　○　ⅳ　○］

ウ［i　×　ii　○　iii　○　ⅳ　×］　エ［i　○　ii　×　iii　○　ⅳ　×］

問四　②「ＳＤＧｓはまさに現代版『大衆のアヘン』である」とありますが、筆者はこの表現により、どのようなことを批判していますか。その説明として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ＳＤＧｓを推進するための行動を取れば、様々な環境問題を解決できると信じ、自分の行動がその一端を担っていることに満足してしまうこと。

イ　ＳＤＧｓを推進するための行動を取るが、今後の経済発展のためには多少の気候変動はやむを得ないと考え、自分の利益を優先してしまうこと。

ウ　ＳＤＧｓを推進するための行動を取らずに、環境保護対策についてはそのうち誰かがやってくれるだろうと、自分勝手で甘い判断をしてしまうこと。

エ　ＳＤＧｓを推進するための行動を取りたいが、温暖化対策として何をしていいかわからず、自分から積極的に行動できないことをふがいなく思ってしまうこと。

問五　③「近代化による経済成長は、豊かな生活を約束していたはずだった」とありますが、「豊かな生活」を実現するのは、どのような社会ですか。適当な部分を、本文中から十三字で抜き出しなさい（記号なども一字とします）。

問六　④「皮肉なことに」とありますが、その理由として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　経済を成長させるとともに環境保護を積極的に行った結果、より豊かな生活が手に入りやすくなり、今後も経済を成長させると同時に環境保護も推進され続けると考えられるから。

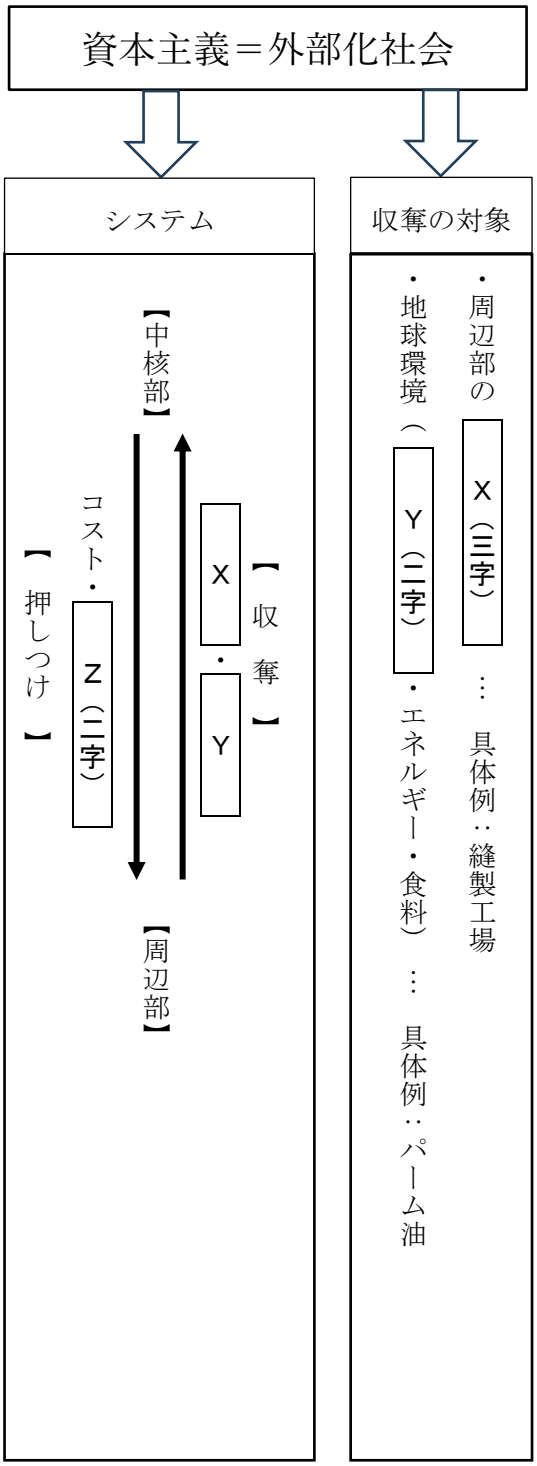
イ　経済を成長させるために環境保護を諦めたことにより、豊かな生活は特定の富裕層だけのものとなり、今後は経済が成長しても全世界的な規模での豊かな生活は望めないと考えられるから。

ウ　経済を成長させることを諦めて環境保護に取り組んだにもかかわらず、豊かな生活を多くの人が手に入れられなかったため、今後は経済の成長だけを目指す方針を取ると考えられるから。

エ　経済を成長させたことによって豊かな生活を手に入れた一方で、環境危機が進行しており、今後は経済が成長すればするほど、環境問題は深刻になっていくと考えられるから。

問七　⑤「もう一方の本質的側面、それが地球環境である」とありますが、二つの側面を整理した次のノートの［　X　］～［　Z　］に入る語句を指定された字数で本文中から抜き出しなさい（同じ記号には同じ語句が入ります）。

【ノート】



問八 ――⑥「そういうこと」とありますが、その内容を六十字以上八十字以内で答えなさい。

問九 C に入る文として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「知りたい」から「知りたくない」に変わっていくのだ

イ 「知らない」から「知りたくない」に変わっていくのだ

ウ 「知りたくない」から「知りたい」に変わっていくのだ

エ 「知りたくない」から「知らない」に変わっていくのだ

問十　筆者の考えとして適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　豊かな生活を保障する資本主義は全世界的な動きを伴っているので、各国政府や大企業は周辺部の労働力や資源をどう分配するかを考える必要があり、率先してそのシステムを維持するための努力をしていかなければならない。

イ　人類の経済活動が地球環境に与えた影響は大きく、各国政府や大企業がＳＤＧｓをいくら推進しても気候変動は止められないため、一人ひとりがエコバッグやマイボトルの活用を行い、気候変動にきちんと向き合わなければならない。

ウ　世界中の需要を満たすための負担を周辺部が押しつけられないように、外部化社会という資本主義の本質を理解した上で、ＳＤＧｓによる地球温暖化対策は万全だと思い込まず、一人ひとりが自分事として考えなければならない。

エ　環境危機は地球全体の問題ではあるが、環境への負荷は一部の地域に偏っているので、資本主義が与える豊かな生活を中核部だけでなく周辺部にまで拡大させるために、周辺部が率先して環境問題を解決しなければならない。

二　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

荒谷伊澄と渡辺六花は高校のクラスメイトである。六花は中学二年生の時に脊髄腫瘍のために歩くことができなくなり、車いすユーザーになった。伊澄は陸上をしていたが中学三年生の時にケガをして以来、走ることから遠ざかっている。次の場面は、伊澄がケガをしたときの回想から始まる。

Ⅰ

『おまえ、今日の結果じゃ萩高の推薦厳しいんじゃない？』

萩丘高校は全国的にも知名度のある仙台の陸上強豪校で、伊澄はその陸上部からほぼ本決まりのスポーツ推薦の話をもらっていた。速水も当然、中学を卒業したらより高いステージを目指して自分と同じ場所へ来るのだと思っていた。けれど大会で普段よりもだいぶタイムを落とした速水は、やけに体温のこもっていない声で答えたのだ。

『いいよ、別に。陸上は中学でやめるし』

そんな話は聞いたことがなかったから、すごく驚いた。ショックを受けたと言ってもいい。

だが、そのショックはすぐに［　A　］に変わった。あれは※落伍者を見る気持ちだった。

『へえ。その程度だったんだ、おまえ』

彼の陸上に対する情熱や愛情、そういうもののことを言ったつもりだった。でもまるで彼という人間そのものを見下げたように聞こえても無理はない。いや、もしかしたら、腹の底には本当にそういう気持ちがあったのかもしれない。だからあんな言葉が出たのかもしれない。

速水の顔を見ていると苛立ちがつのりそうで、顔を背けて立ち上がった。①夏の陽光に照らされたフィールドに戻るために。速水が逃げて、自分は残り続ける場所に戻るために。その時、腹の底に溜まった呪いを吐き出すような、低くしゃがれた声が聞こえたのだ。

『おまえのそういうところがずっと嫌だったんだよ』

左の鎖骨のあたりをドンと押されて、バランスを崩した。その後、何度も何度も考えることになる。あそこが階段のすぐそばではなかったら。

自分が踏みとどまっていたら。何かつかまるものが近くにあったら。速水が、とっさに伸ばした自分の手を握ってくれたら。

でも、現実の自分は、真っ逆さまに階段を落ちていった。

頭を打って脳震盪を起こしたから、残っている記憶は断片的だ。ただ、自分の左膝の内側でブツンと組織が千切れる音をはっきりと聞いたことと、脳みそをめった刺しにされるような激しい痛みだけは覚えている。

意識を失っている間にa搬送された病院で、脳のＣＴ検査だとか左膝の保存治療だとかが行われ、目が覚めるとベッドのわきに母親が硬い表情で座っていた。母は「私が余命宣告を受けたら絶対に包み隠さず話しなさいよ」と息子に言いつける人だから、息子にもオブラートに包むことなく正確に診断結果を伝えた。左膝の前十字靭帯が断裂し、半月板も損傷していること。走者としての今後を考えるなら、靭帯の再建手術を受けるべきであること。その手術を受けてもどこまで回復するかは今の段階では何とも言えないこと。ただ、少なくとも手術とリハビリを含めて一年、あるいはそれ以上のブランクが空くのは避けられないこと。

けがをした直後のほうが、まだ冷静だった。もちろんそれは冷静なつもりでいただけなのだが、少し時間が経って自分の身に起きたことを理解してからのほうが精神は荒れた。特待生待遇での推薦が内定していた萩丘高校から探りが入って、今後の回復次第では推薦の内容を変更するか、取り消すかもしれないと言われてからは、荒れに荒れた。

面会がゆるされるようになると陸上部の顧問がやってきた。とにかく今はけがを治すことだけ考えろ、絶対にまた走れるようになるから、と諭す顧問の隣で、速水はずっとうつむいていた。ほら速水、と顧問に促されてからやっと、憔悴しきって別人みたいになった顔を上げた。

速水は、ただ黙って、額が膝につくほど深く頭を下げた。

ごめん、とか、具合はどうだ、というような言葉もb一切なかった。あれくらい避けられないおまえがドジなんだ、とか、あんなことを言ったおまえが全部悪いんだ、とか、そんなことでもいいから何か言ってほしかった。でも速水はいつまでも背中をまるめて頭を下げたまま動かなくて、急にパリンとガラスが割れたみたいに、全部わからなくなった。

俺は今まで何をやってたんだ？

速く、速く、誰よりも速く走って、それがいったい何になるんだ？ そうやってほかの全部をないがしろにしてやってきたことの結果がこの状

況なのだとしたら、それは、なんて下らないのか。そんなことに十五年の人生の大部分をc捧げてきたのか。なんて――②アホらしい。

それからは一転、手負いの獣(けもの)※みたいに荒れていた気持ちは、どろどろの重油の表面みたいにぴくりとも波打たなくなった。何もかもが薄紙一枚を隔てた向こう側にあるように味気なく、もう走れなくなるかもしれないと思うたびにこみ上げていたあれだけの恐怖も、誰かほかの人間の事情みたいに思えた。

『金なんざどれだけ掛かったってかまわないわよ、受けなさい』と母親に胸ぐらをつかんで凄(すご)まれたので、靭帯の再建手術だけは受けたが、日ごとに傷が回復し、リハビリを重ね、動かなかった足がじょじょに元に戻っていくのと引き換えのように、走りたいという気持ちは失せていった。受験が差し迫る冬の頃には、井戸の水が涸(か)れ果てるように、憧れも情熱も生まれた意味を悟る瞬間に焦(こ)がれる思いも、一滴残らず消えていた。

それでも退院して学校に復帰した日、速水に会うために、陸上部の部室に行ったのだ。もう手遅れだとは思う、だけどあの日に自分が言ったことを謝りたくて。

けれどチームメイトに、速水がずいぶん前に退部したことを知らされた。

その足で伊澄は顧問のもとへ行き、陸上部を退部すること、スポーツ推薦も辞退することを伝えた。

三年生の時には速水とはクラスも別だったから、その気になれば顔を合わせずに暮らすことは可能だった。廊下で姿を見かけることさえ稀(まれ)だったから、速水のほうも自分を避けていたんだと思う。

無言で頭を下げ続ける姿を見たあの日以来、速水とは何も話していない。

Ⅱ

「その人は、それからどうしたの？」

六花の張りのある声は、雨音の中でもくっきりと耳に届く。風景はまだ暗い銀色にけぶっているが、雨が屋根やコンクリートを叩く音はさっきよりもd幾分静かになっていた。

「仙台の私立に行ったって聞いた。それしかわかんないな」

「※那須(なす)くんがいくら誘っても陸上部に入らないのって、その人のことがあるから？」

六花の口調には下手な気遣いやなぐさめが一切なく、それが却(かえ)ってよかった。

「駅で泥棒を捕まえた時も、今日の体育の時も、私から見たらチーターみたいに速かったし、けがをしてるなんて全然わからなかった。本当は、もうよくなってるんじゃないの？その気になったら走れるくらい。それでもそんなに一生懸命やってた陸上に戻らないのは、本当は、けがのことよりその人のことを気にしてるから？」

「③ズバズバくんなぁ」

「一回死にかけてから、まわりくどいことはやめたの。人生って思ったより時間がないんだってわかったから」

十代前半にしてそんなことを悟ってしまったから、彼女はやたらと切れ味がよくてe潔いんだろうか。身に起きたことから何も学べていないし、悟れてもいない自分とは違って。

「自分でも、よくわからない。だいぶ治ってるのは本当で、でも前と同じようには走れないのも本当で、一番速かった自分に戻れないならもういいって思う。それに、もし陸上部に入って大会とかであいつと顔合わせたらって思うと怖いし、あっちも相当嫌だろうなって思う」

今まであまり意識しないようにしていたことを言葉にするうちに、あいつも同じようなことを考えて陸上をやめているかもしれない、と思い当たった。それは――とても残念でかなしいことだと思った。自分のことは棚に上げて、彼には今も走っていてほしいと思った。

「走ろうと思えばできるくせに甘ったれんなって、思われるかもしれないけど」

「思わないよ、そんなこと」

六花の目つきと声は鋭いくらいだ。

「私の足のことと、荒谷くんのけがのことは別の出来事でしょ。その人に起きたことの重みは他人と比較なんかできないってことくらい、私だってちゃんとわかってる。せっかく治ったのに使わないなら私にちょうだいよ、なんて映画の台詞(セリフ)みたいなこと言わないし、一ミリも思わないから。④見くびらないで」

「すみません」

「以後気をつけて」

ツンと顎(あご)を反らした彼女の、足代わりである水色の車いすを、伊澄はながめた。

「この前、将来はスタイリストになりたいって言ってたよな。それって、ミュージカル俳優にちょっと近いから？」

「うん。それなら、ステージに立つ人たちに関われるかなって」

「車いすでステージに立つことって、できないのか」

彼女は、もう踊ることはできないかもしれない。でも彼女には声がある。取り返しのつかないことをしでかした男子高校生の、無神経な心すら動かす歌がある。

「できないことはないよ。ハンデを持っていても、そういう世界で活躍してる人たちはたくさんいる。プロの世界じゃなくても、もっと身近なところでミュージカルが好きな人たちとステージに立つこともできるかもしれない。でも、それは、私が立ちたかったステージじゃない」

静かに、しかし［　B　］と、六花は言った。

「私が立ちたいのは、小さい頃におばあちゃんに連れていってもらった、あのステージなの。夢みたいに楽しくて、キラキラきれいで、でもその裏側では誰もが血を吐くくらい苦しい練習に耐えてる場所。努力の量や気持ちの強さなんて関係なくて、認められた人だけが残されて、そうでなければどんどん切り捨てられていく場所。私が行きたいのはそこだけ」

六花と同じようなことを、自分も以前に言ったことを思い出した。走ることそのものは喜びにならないのかと問う母に、自分はそうではないと答えた。競いながら走り、そして誰よりも速く在ること。それが自分の喜びだった。いい悪いの問題ではなく、自棄(やけ)になっているのでもなく、ただ自分が求めてやまないのは⑤そういうもので、きっと六花にとってもそうなのだ。

運命だと確信するほど彼女が愛したものは、切り立った崖(がけ)のような場所にある。好きという気持ちや努力を惜しまない情熱は当然で、その上で肉体的にも選ばれた一握りの者しか進めない場所にある。

「だからいいの。ちゃんともう整理はついてる。私はステージに立つ人間じゃなく、ステージに立つ人たちを支える人間になりたい。そう決めたから」

カーテンコールに応(こた)える女優のようなあざやかな笑顔に何も言えずにいると、六花が淡い茶色の瞳で空を見上げた。

「雨、やんできた」

伊澄も空を仰いだ。⑥鉛(なまり)を流したようだった灰色の雲に切れ間が広がっていた。重苦しく垂れこめる雲の、割れ目の縁だけが淡い金色にかがやいて、そこから透きとおった光が幾すじも、細い鎖のように地上に射しこんでいる。

「きれいだね。なんか、あそこに神様がいるみたい」

唇を［　C　］六花は、澄んだ声で続けた。

『神様は扉を閉める時、別のどこかで窓を開けてくださる』

「……何それ？」

『サウンド・オブ・ミュージック』っていうミュージカルの中の台詞。主人公のマリアは修道女見習いなんだけど、あんまり［　D　］でおてんばだから、修道院を出て軍人一家の家庭教師をするように言われるの。最初はしょげてたマリアが、自分を勇気づけるためにこう呟(つぶや)くんだ。リハビリ病院にいた時に映画を観て、それからずっとこの言葉が私のおまもりなの。もう一回全部最初から始めて、私も窓を探そうって思った」

まだ霧(きり)のような雨が舞う淡い光の中で、六花はほほえんだ。

「荒谷くんも見つかるといいね。神様が荒谷くんのためにどこかに開けてくれた、窓」

（阿部暁子『カラフル』による）

※落伍者…競争に負けた人。

※手負い…傷を負った。

※那須くん…伊澄や六花と同じクラスで陸上部に所属している。

問一　═══　a～eの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 [A] に入る語句として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 嫉妬　　イ 感動　　ウ 憤慨　　エ 絶望　　オ 軽蔑

問三 ①「夏の陽光に照らされたフィールドに戻るために。速水が逃げて、自分は残り続ける場所に戻るために」とありますが、この時の伊澄の心情として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 速水は陸上をやめるといったが、それは本心ではなく、これからもお互いを高め合っていけるはずだと祈る気持ち。

イ 速水が陸上をやめるといったことに対する怒りが収まらず、その怒りを早くフィールドに出てぶつけたい気持ち。

ウ 速水が陸上をやめると聞いて衝撃を受けたが、陸上から逃げる速水と自分は違うんだと自身に言い聞かせる気持ち。

エ 速水が陸上をやめると聞いてショックを受けた状態から立ち直れず、気持ちを落ち着かせるためにその場から離れたい気持ち。

問四 ②「アホらしい」とありますが、このときの伊澄の心情として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 速水と一緒に誰よりも速く走れるようになるために、彼を励ましてきたが、自分がタイムを落としたことの腹いせに階段から突き落とされ、友情のもろさに気づき、悲嘆している。

イ 誰よりも速く走ることを優先して、周囲の人の気持ちを考えずに接してきたが、走れなくなった途端に大切なものを失ったと気づき、自分の愚かさに落胆している。

ウ 誰よりも速く走ることを目指し、一度きりの青春を犠牲にしてきたのに、ケガをして走れなくなったことで、陸上には何の価値もなかったと気づき、未来に絶望している。

エ 誰よりも速く走るために、血のにじむような努力を重ねてきたのに、ケガをして走れなくなった現実に直面し、ここは自分が輝けるステージではないと気づき、焦りを感じている。

問五 ③「ズバズバくんなぁ」とありますが、このように発言したときの伊澄の心情として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分のためにわざと明るくふるまってくれる六花の優しさにほほえんでしまう気持ち。

イ 変な気遣いもなぐさめもなく直球で質問してくる六花に心地よさを感じる気持ち。

ウ 切れ味鋭い六花の言葉に子どもじみた自分との大きな違いを感じて落ち込む気持ち。

エ 歯に衣着せぬ六花の物言いに、もう少し自分の心を気遣ってほしいと苛立つ気持ち。

問六 ④「見くびらないで」とありますが、このように発言したときの六花の心情として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 走りたくても走れない六花を気遣って「走ろうと思えばできるくせに甘ったれんなって、思われるかもしれないけど」と発言した伊澄の配慮に対し、下手な気遣いはいらないとはっきり伝えたい気持ち。

イ 走りたくても走れない六花を心配して「走ろうと思えばできるくせに甘ったれんなって、思われるかもしれないけど」と発言した伊澄の優しさに、思わず泣きそうになった気持ちをごまかし強がる気持ち。

ウ 「走ろうと思えばできるくせに甘ったれんなって、思われるかもしれないけど」という自虐的な伊澄の言葉に、そんな弱気ではケガのことは乗り越えられないと突き放しつつ強く励ます気持ち。

エ 「走ろうと思えばできるくせに甘ったれんなって、思われるかもしれないけど」という無神経な伊澄の言葉に、六花が歩けないことと伊澄が走れないことを一緒にされたような気がして深く傷ついた気持ち。

問七 B にあてはまる語句を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア こっそり　イ やんわり　ウ うっかり　エ きっぱり

問八 ⑤「そういうもの」とはどういうものですか。本文の語句を用いて二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

問九 ⑥「鉛を流したようだった灰色の雲に切れ間が広がっていた」とありますが、この表現が暗示するものとして適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 重い病にかかり歩くことも夢を叶えることもできなくなった六花が、伊澄と出会ったことで新たな夢を見つけることができたと知り、一度はあきらめた陸上に再び挑戦しようと伊澄が決意したことを暗示している。

イ 伊澄は自分がケガをした場面が何度も頭をよぎることに長い間苦しんできたが、自信に満ちあふれて自分の夢を語る六花の姿を見て、自分も六花のようになりたいと自らを奮い立たせていることを暗示している。

ウ 今まで意識しないようにしてきた速水のことを六花に話したのに加えて、前を向いて進もうとしている六花の話を聞いたことで、過去の出来事が重くのしかかっていた伊澄の心が少しずつ明るい方向へと進み始めることを暗示している。

エ 本当はプロのミュージカル女優になりたいが、それが無理だと分かり、スタイリストになるという夢で自分をごまかしていた六花が、伊澄の話を聞いて、カーテンコールに応える女優のような美しさを取り戻したことを暗示している。

問十 [C]にあてはまる語句を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア むすんだ　イ ほころばせた　ウ かみしめた　エ ゆがめた

問十一 [D]にあてはまる四字熟語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自由奔放　イ 七転八倒　ウ 疑心暗鬼　エ 大器晩成

問十二　次の会話は、本文について授業で話し合った内容の一部です。［　　］に入る語句を考えて二十字以上三十字以内で書きなさい。ただし、文中の二つの［　　］には、どちらも同じ語句が入るものとします。

先生　まずは［Ⅰ］の、伊澄が靭帯の再建手術を受けた後の場面を詳しく見てみましょう。＿＿＿部「井戸の水が涸れ果てるように、憧れも情熱も生まれた意味を悟る瞬間に焦がれる思いも、一滴残らず消えていた」という表現に注目してください。ここから分かる伊澄の気持ちを考えてみましょう。

生徒Ａ　「～ように」という表現を使って、伊澄の気持ちを他のものに置き換えているよ。これを比喩っていうんだよね。

生徒Ｂ　「井戸の水が涸れ果てる」かぁ。あまりピンと来ないな。

先生　それでは「井戸の水が」と「涸れ果てる」に分けて考えてみましょう。まず、井戸の中にはどのような水がありますか。

生徒Ａ　井戸の中には地下水がたまっています。

先生　そうですね。では地下水とはどのような水ですか。

生徒Ａ　ちょっと調べてみます。

地下水とは

長い年月をかけて雨や雪が地表面から地中に浸透し、土の中の隙間の部分に溜まった水を貯えたもの。

と書いてありますね。

生徒Ｂ　あ！ということは伊澄の憧れや情熱は［　　］ということが分かるよ。それが涸れ果てた。つまり一滴も残らず消えた。一滴も……。ここから伊澄にとってよほど辛い出来事があったと分かるね。

先生　伊澄の心に迫った読みをしていますね。それでは六花の場合はどうでしょうか。［Ⅱ］で六花が自分の夢について語る場面を見て

みましょう。

生徒Ａ　六花はミュージカル女優になりたかったんだよね。「努力の量や気持ちの強さなんて関係なくて、認められた人だけが残されて、そうでなければどんどん切り捨てられていく場所。私が行きたいのはそこだけ」という部分から強い覚悟を持っていたことが分かるよ。

生徒Ｂ　つまり伊澄が陸上に対して抱いていた思いと同じように、六花のミュージカルへの憧れや情熱も［　　］ということだね。この場面でお互い共通する部分があることを分かり合っている気がするな。

先生　一つの表現を通してより深い読みができましたね。引き続き、使われている言葉に注目して作品を読み深めていきましょう。

三 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

※堀河院の御時、※勘解由次官明宗とて、①いみじき笛吹きありけり。②ゆゆしき心おくれの人なり。院、笛聞こしめされむとて、召したりける時、帝の御前と思ふに、※臆して、わななきて、③え吹かざりけり。

④本意なしとて、相知れりける女房にaおほせられて、「※私に坪の辺りに呼びて、吹かせよ。われ、立ち聞かむ」とおほせありければ、月の夜、かたらひ契りて、吹かせけり。「女房の聞く」と思ふに、※はばかるかたなくて思ふさまに吹きける。世にbたぐひなく、めでたかりけり。帝、感に堪へさせ給はず、「日ごろ、上手とは聞こしめしつれども、かくほどまでは思しめさず。いとどこそ［　⑤　］」とおほせ出されたるに、「さは、帝の聞こしめしけるよ」と、たちまちに臆して、⑥さわぎけるほどに、縁※より落ちにけり。⑦「安楽塩」といふ※異名を付きにけり。

（『十訓抄』による）

※堀河院…第七十三代堀河天皇のこと。「院」と「帝」は同一人物。笛の名手として有名だった。

※勘解由次官…「勘解由使」という役職の副長官。

※臆して、わななきて…気後れして、体が震えて。

※私に坪の辺りに呼びて…個人的に庭のほとりに呼んで。

※はばかるかたなくて…遠慮することもなくて。

※縁より落ちにけり…縁側から落ちてしまった。

※異名…あだな。別名。

問一　a「おほせられて」、b「たぐひなく」の読みを現代仮名づかいに直し、すべてひらがなで答えなさい。

問二　①「いみじき」、③「え吹かざりけり」の現代語訳として適当なものを、次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①「いみじき」　ア　下手な　イ　すばらしい　ウ　謙虚な　エ　恐ろしい

③「え吹かざりけり」　ア　きっと吹いていただろう　イ　吹くふりをしていた　ウ　吹くかもしれなかった　エ　吹くことができなかった

問三　②「ゆゆしき心おくれの人なり」とありますが、誰がどんな人であるのか、適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　帝がとても正義感の強い人である　イ　帝がとても横暴な人である
ウ　明宗がとても自信のない人である　エ　明宗がとても器用な人である
オ　女房がとても謙虚な人である　カ　女房がとても穏やかな人である

問四　④「本意なし」とは「不本意だ・残念だ」という意味ですが、誰がどんなことについて不本意なのかを記した次の文を完成させなさい。ただし、［A］・［B］はあとのア～エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。［C］は簡潔に答えなさい。

［A］が［B］の笛の音を［C］こと。

ア　明宗　イ　院（帝）　ウ　女房　エ　人々

問五 ⑤ に入る語句として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア めでたく　　イ めでたし　　ウ めでたき　　エ めでたけれ

問六 ⑥「さわぎける」の主語として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 明宗　　イ 院（帝）　　ウ 女房　　エ 人々

問七 次の会話は ⑦「『安楽塩』といふ異名を付きにけり」について授業で話し合ったときの内容の一部です。あとの問いに答えなさい。

生徒　先生、この話は面白い話だと聞いたのですが、どこが面白かったのでしょうか。正直なところ、私には面白さがわかりにくかったです。

先生　「安楽塩」という言葉がありますね。この言葉の「あんらくえん」という読みがポイントなんです。 ⑦ の前に「縁より落ちにけり」とあります。この場面は D が縁側から庭に落ちてしまった場面です。そして「安楽塩」とは雅楽の有名な曲名です。このヒントでわかりましたか。

生徒　先生、縁側から落ちてしまったこと、つまり「 E 」と曲名の一部、「楽塩」をかけてだじゃれにしているということですか。

先生　その通りです。この当時の人々にとっては、だじゃれは言葉遊びとして親しみを持たれていたのかもしれませんね。堀河天皇の話は古文によく出てきます。彼は笛が好きな天皇で、笛にまつわる話も多く残っています。

生徒　私は中学校で学んだ『F 枕草子』が好きでよく読んでいますが、その二〇五段に「笛は」という話がありました。「笛は、横笛いみじう G 。遠（とほ）うより聞（きこ）ゆるが、やうやう近うなりゆくも G 。」と。

先生　当時の男性にとって笛をたしなむことは教養でした。笛を愛し、笛の音色に趣深さを感じていることがよくわかる文章ですね。

(1) D に入る人物として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 明宗　　イ 院（帝）　　ウ 女房　　エ 人々

(2) E に入る漢字二字の語句を前後の文章を手がかりにして答えなさい。

(3) ―― F「枕草子」の作者として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 紫式部　　イ 紀貫之　　ウ 清少納言　　エ 兼好

(4) G に入る、枕草子を象徴する語句として適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア あはれなり　　イ ゆかし　　ウ きよらなり　　エ をかし